

対馬釜山事務所だより

イロン ヘンサガ イツソヨ!

(こんな行事がありました。)

日本の「祭」といったら夏の風物詩ですが、韓国では春と秋に行事が多いです。この秋にも釜山では、釜山国際映画祭、朝鮮通信使文化行事、釜山吹奏楽祭、釜山ピエンナーレーなどなど、様々なイベントがありましたが、その中でも今回は対馬との関係がある交流行事を紹介します。



10月19日から厳原中学校と仁田中学校の2年生82名が修学旅行で韓国を訪れました。韓国ではまず地元の中学校との交流をしました。「新羅中学校」を訪問した厳原・仁田の生徒は、授業を見学してから交流会を行いました。交流会で対馬側は「ソーラン節」の力強い踊りを全員で披露しました。新羅中学の学生からは、縦笛の演奏、アリランなどの民謡の合唱、そしてダンスを見せてくれました。時間が短く個々人の会話が出来なかったことが残念でしたが、対馬の中学生は新羅の中学生の元気づ

ぶりと積極さにちょっとびっくりしてしまったようでした。

次は上対馬高校プラスバンド部が参加した10月21日の釜山吹奏楽祭です。参加は今年で3回目になりました。今回は釜山東義工業高校のプラスバンド部と「スキヤキ」を共同演奏しました。台風の影響で1日遅れて釜山に着いたプラスバンド部は、共同練習の時間がほとんど取れない中、それぞれ各パートの楽器同士で確認したり教え合ったり、上対馬高校音楽担当の岡崎先生のご指導のもと、演奏曲の練習に夢中に取り組んでいました。その姿は「美しさ」そのものでした。日韓の高校生は練習の合間、言葉が通じない中でも身振り手振りで話し合ったり、カメラ付き携帯で撮り合ったりと交流を楽しんでいました。

釜山吹奏楽祭の本番では、アンコールに応じて、韓国の童謡である「故郷の春」を演奏して大きな拍手をもらいました。その翌日は、地下鉄の西面駅舎内での街頭演奏をし、前日に合同演奏した東義工業高校のプラスバンド部員が応援に駆けつけました。

最後は、10月22日から24日にかけて催された朝鮮通信使文化事業の話です。対馬アリラン祭りから始まった朝鮮通信使行列再現が、日本の「縁の町」での再現に続いて韓国釜山でも再現されて今回で2回目を迎えました。23日、竜頭山公園の一带で再現された通信使行列には、対馬から「対馬藩武士と阿連地区盆踊り」が参加しました。阿連地区盆踊りのチームは夕方の舞台でも踊りを披露し好評を博しました。

通信使行列は11月27日、厳原町でもう一度再現されますが、その時は日韓の通信使の「ゆかりの町」が対馬に集まります。厳原体育館ではシンポジウムや日韓芸能披露、物産展、写真展など多彩な催しも準備されています。市民の皆様、どうぞお寄りになってください。



対馬釜山事務所 金 京一、辛 恩京